

学習内容報告書 フォーマット

学校名	新宿区立富久小学校
授業者	由木 正浩

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

海を守れ、海洋プラスチック汚染の現状と課題解決に向けて

1-2. 学年

5年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間・社会科・算数科

1-4. 単元の概要

・生き物を育む干潟の役割、川と海が会う、汽水域の重要性を学ぶとともに、地球規模で問題となっている海洋プラスチック汚染の現状を学び、海洋プラスチック汚染の問題を自らの課題として考える学習を行う。

海洋プラスチック汚染の原因となる物の約80%はもともとは陸上にあったプラスチックだとも言われている。内陸部に生活する児童にとって、これは他人事でない大きな課題である。

5年生は葛西臨海公園でのマイクロプラスチック調査を昨年度行い、汚染の実態を身をもって体験したことで、海洋プラスチック汚染への関心を高め、解決への意欲を持っている。

そこで、2年計画の学習として再構成し、2年目の今年度は自分たちの暮らす新宿区を流れる神田川が流れ込む荒川河口部「葛西臨海公園西なぎさ」との比較として、東京湾の各地（東京湾最奥部、東京湾入口に当たる千葉県房総半島）や静岡県伊豆半島の砂浜の砂の分析も進める。この学習と並行して、海洋プラスチック汚染対策のための企業や市民団体の取り組みを取材し、内陸部に暮らす私たちが海洋プラスチック汚染を解決するために「今できること」を考え、新宿区環境学習発表会で自分たちの策定した行動プランを発表する。




1-5. 単元設定の理由・ねらい



・地球規模で問題となっている海洋プラスチック汚染の現状を調査することで、海洋プラスチック汚染の問題を自らの課題として考え、課題の解決に主体的に取り組む意識を高める。学習を通して、海と日常生活が深く結びついていることに気付かせ、海への畏敬の念を育む。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで課題を発見し、解決の道筋を考える力 ・他人と協働し、課題解決に向かう力
--

1-7. 単元の展開 (全 30 時間)

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
4	<ul style="list-style-type: none"> ・葛西臨海公園西渚において、海洋実習を行う。 ・海洋プラスチック汚染の現状を調査する。 ・分析するための砂のサンプルを採集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨海公園のマップを使用し、マイクロプラスチックの分布状況を記録する。 ・葛西臨海公園との連携 
4	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち帰ったサンプルを分析する。 ・10のサンプルの中からマイクロプラスチックを取り出す。 ・取り出したマイクロプラスチックの数量を数え、プラスチックの種類を推測する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り出し規準は 1 ミリ以下とする。(5 ミリ以下と定義する研究者もいることから) 5 ミリ以下も許容する。 
4	<ul style="list-style-type: none"> ・エコプロ展「海洋プラスチック汚染特設ブース」を見学し、企業や市民団体の解決への取り組みを取材する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルしやすいプラスチック製品の開発・製造・利用の推進や、より環境負荷の低い素材・製品への代替、プラスチックの 3R やごみ拾い活動などを取材し、海洋プラスチック汚染の解決に向けた学習への資料とする。 

<p>15</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習発表会に向けて学びを深める。 ・各グループで追究課題（小テーマ）を決めテーマを追究する。 ・身近な海（葛西臨海公園）と隣接する千葉市稲毛海浜公園の砂、東京湾の入り口にあたる千葉県富津岬の砂、東京湾の先にあたる伊豆半島川奈の砂との比較を行う。 ・環境学習発表会において伝えたい「今私たちにできること」を考える。 ・環境学習発表会のプレゼンテーション資料を作成する。 	
<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習発表会で行動プランを伝える。 	

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ



単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

マイクロプラスチックの分析、環境展覧会の参加を通して発見したことを基に「今私たちにできること」を考える。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>○これまでの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイクロプラスチックの分析 ・環境学習展の資料 ・海洋関連書籍等の資料 ・WEB 資料 <p>○グループ毎に追究するテーマを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状はどうか ・海洋プラスチック汚染の問題点は何か ・どのような解決の取り組みがあるのか ・今私たちにできることは何か（提言） <p>○各グループで考えを絞り込む</p>  <p>○環境学習発表会での成果発表に向けて、各グループで学習計画を立てる。</p>	<p>・これまでの学習資料を用意し、適宜振り返りができるようにする。</p>  <p>・KJ 法やウエビングマップ等の思考ツールを活用し、グループの考えを整理できるようにする。</p>

3. 今回の活動の自己評価

今回の学習は、一番近い海（葛西臨海公園）の調査から学習を始めた。問題の現場に足を運び、調査分析を通して課題をつかむ事、そして、各方面で課題解決に取り組んでいる事例を取材する中で、自分は何ができるかを考えると学習過程を組み立てた。

実態に触れる事から始める学習は、子どもたちに問題を自分事として考えるきっかけを与え、内陸部に暮らす子どもたちに海洋の問題を身近な問題として関心をもたせることにつながった。

内陸部に暮らす子どもたちと海との関わりは日常的には少ないと考えられるが、テーマ次第で、海洋と自分たちの暮らしとの関連を密に考えることが出来るようになり、海洋への関心を高める事につながる事が確認できた。

4. 今後の課題

海洋教育の目標である、海を知る、海を守るに関しては内陸部の学校においても、既存の教育課程の中において系統的、継続的に学習内容を構成し、持続発展的に児童に海洋リテラシーを育むことができることは確認できた。また、海に親しむに関しては、海洋実習や海洋水族館の運営において実施する事が可能となった。

その一方で海を利用するに関しては、教材開発は十分ではない。海が身近な生活圏にない内陸部の学校における海の利用について今後の課題として考えていきたいと思う。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

本報告書は内陸部における学習の例である。海が身近な生活圏にある学校においては、より現地（海浜）での活動を取り入れると学習が深まると考える。

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。